

事業レポート

団体名：日本エストニア友好協会

事業名：エレルヘイン少女合唱団 札幌公演

文章作成：日本エストニア友好協会 事務局 上原 博

作成日：2009年8月28日

14年ぶりの北海道公演、エストニア共和国エレルヘイン少女合唱団

7月19日は、朝起きると雨だった。

一日中降るようだが、エレルヘインの移動とお客さんの入りが心配だ。

12：14分札幌駅にエレルヘイン一行無事到着、指揮者のロイットメさん＝写真中央右＝とも久しぶりの再会

約一ヶ月の日本滞在で、団員それぞれの荷物が山のようにある、それをトラックに運び込むだけでも一仕事

早速、食べ盛りの女の子たちの昼食会場へ移動、エストニアでは、ごちそうといわれているカレーを、おいしそうに、おかわりをしながら食べている。

食事が終わると、その場で練習時間を惜しむように、早速、コンサートのリハーサルを一時間程度入念におこなう。

子供たちは、エストニアにはないアーケード街の狸小路に興味津々であるが、なかなか解放されない。

やっと自由時間が与えられ、街を覆う吹き流しや色とりどりの看板などの中での写真撮影、ショッピングなど、十代の女の子たちの素顔を垣間見た。

一時間遅れで、ホテルへチェックイン。

それぞれ部屋で休息。



早速、共済ホールの開演準備に。

17：00時に、今日合同合唱をしてくれる、柏、中島、山鼻の中学生がバスで到着、やや遅れて、エレルヘインも到着し、早速舞台上で合同のリハーサル。

合同演奏曲は、柏中野村先生＝写真中央左＝が、指揮をすることに。ご本人も少し緊張ぎみ。

開場を少し遅らせて練習をつづける。

お客さんが、ロビーと階段に、かなりの観客が集まりはじめ10分遅れで開場。

雨の割には、よいで足と一安心、昨日エレルヘインが釧路で、北海道とエレルヘインの仲を取り持ったシーリエさんの墓参りが、道新に、かなり大きく記事が掲載されたせいか、予想以上に当日券も好調、何とか目標に到達できそう。



ロイットメさんの指揮で歌うエレルヘイン少女合唱団の少女たち。



日本の中学生の少女達とアンジェラ・アキの「手紙」を合唱、来場者から大きな拍手を受けた。

18:00、協会主催者挨拶から、いよいよスタート

一部、二部と順調に進む、

いよいよ、日本の中学生とのコンサート、以前から友達だったような雰囲気の中で、アンジェラ・アキの「手紙」を中学生ものびのびと歌う。

開場もその暖かさに包まれている。

「ありがとう」へと続く主催者として、喜びのひとつときだ。

日本の中学生は、簡単なエストニアの言葉も覚えてきてくれて、

合唱の余韻を引きながら、舞台やロビーで交流、本当に、すばらしい瞬間だ

今回の公演で、エレルヘインが楽しみにしているのが東京デズニーランドでの休演日の楽しみ。

グッズの販売で費用を捻出すること、少しでも多く販売したいとスタッフも力が入いた。

もう、八時半もすぎた、お腹もすいたし、さっそくホテルへ帰って

交流会、パンやパスタなど日頃彼女たちが食べているものの他に、

肉じゃがや天ぷらなど和食メニューも半分取り入れたビュッフェスタイルも好評で、十分お腹を満たしたあと、

エストニアからのお礼と、協会からの歓迎挨拶さらに、参加者の紹介など交流を深めた。

エストニアは合唱の国とも言われており、交流会の後半は、彼女たちの感謝の合唱の連続で、大半の参加者は、お互いの言葉を理解しないが、歌を通じ、心がふれあう場面でもあった。

ちょうど、この日、団員の一人が誕生日で、知らない土地での、参加者全員のハッピーバースディの合唱は、彼女にとっても一生の思い出となった。

10時半過ぎに解散し、彼女たちの初めての経験である温泉タイムで疲れを癒してもらうことにした、明日も強行軍なので・・・

次の朝、6時半からの朝食、7時ホテルをバスで出発と慌ただしい。彼女たちの「ありがとう」の感謝と、私たちスタッフも無事送り出したことに安堵を覚えた。

この後、8月12日まで、全国でのコンサートや、京都、奈良、東京等の見学をこなし、無事帰国の途についた。

東京のコンサートでは、天皇皇后両陛下のエストニア訪問に際し、御前で合唱を披露したご縁から皇后陛下にコンサートにおいていただいたのをはじめ、8月6日の広島原爆慰霊式において、平和の歌を捧げるなど、日本国ならびに日本国民とも新たな交流を重ねることができた。

協会の行事としても、本部、札幌、東京の各支部が連携をし、成功裏に終了することができ、さらに、今後の活動に対しても、思いを一つにして取り組んで行くことができる、大切な機会であった。